第７回人吉市立学校のあり方検討委員会

日時：令和８年１０月１日（木）
午後２時３０分から
会場：人吉市役所３階
３０１・３０２会議室

～　次　　第　～

１　開会

２　委員長あいさつ

３　人吉市教育委員会あいさつ

４　議事
（１）保育園・幼稚園の「保護者意見」について

（２）小学校・中学校の「保護者意見」について

（３）人吉市立「中学校」の今後の方向性についての検討

（４）その他　今後のスケジュール等

５　本日の総括（委員長）

６　その他
（１）次回開催日（予定）　令和８年１０月２２日（木）午後２時３０分～
人吉市役所３０１会議室

７　閉　会

保育園・幼稚園の「保護者意見」について

地域の視点から（コミュニティ・防災・まちづくり）

○使用していない教室を整理して２棟から１棟へ集約するなど、改修費用を抑えながら学校の存続を図る柔軟な仕組みや、制度的に可能か分かりませんが、分校や小中一貫教育など、様々な選択肢についてもご検討いただきたい。
○西瀬校区においては、上戸越などの水源地を含む地域では空き家も多く、地域コミュニティの維持に不安の声もあります。地域に人の目が行き届き、安心して暮らせる環境を次世代へ引き継ぐためにも、学校の存在は重要な役割を担っていると考えています。
○建て替えや再編をご検討される場合は、ハザードマップ等を踏まえた安全な場所への立地（建設）についてもご検討いただければと思います。
○統廃合の議論とあわせて、若年層家庭の市外流出を抑え、子育て世代が住み続けたいと思えるまちづくりについても、ご検討いただければ幸いです。
○将来的には、大畑小学校と第三中学校を義務教育学校（小中一貫校）とすることや、東間小学校や第一中学校との連携・統合を図ることも、一つの選択肢になる可能性があると考えます。

保護者の視点から（通学の安全と負担軽減）

○児童数の減少により、下級生（３年生など）が班長を務め、交通量の多い道路を登校するケースが見受けられます。保護者としては心配が尽きないため、上級性がいる班との再編など、登校班の見直しも必要と考えています。
○統合先によっては通学距離や通学時間が増え、子どもや保護者への負担が大きくなることが想定されます。スクールバスの運行など、通学の安全確保と負担軽減策についても併せてご検討いただき、特に子どもたちの通学負担には十分ご配慮いただければと思います。
○学童クラブとの距離的な関係性についてもご配慮いただければと思います。

子どもたちの視点から（心のケアと教育環境）

○財政面や効率性に加え、子どもたちの心理的負担や学習環境、成長への影響を第一に考えた議論を進めていただければと思います。

○学校再編により環境が変化し、新たな人間関係が形成されることで生じるストレスが、いじめにつながることを最も懸念しております。
いじめの未然防止や早期発見、心のケア体制の充実など、この点に特に力をいれていただければと思います。
○学校再編で最も影響を受けるのは子どもたち自身です。意見交換の機会などを通じて、子どもたちの不安や期待にも丁寧に耳を傾けていただけると幸いです。
○小規模校として存続する場合であっても、学校間交流や合同学習、ＩＣＴを活用した他校とのオンライン交流など、多様な考え方や価値観に触れる機会を設けていただけるとありがたいです。

その他

○住民説明会などを通じて、地域や保護者の声を丁寧に聴いていただいていることに感謝いたします。今後も、子どもたちにとってより良い教育環境をどのように実現するかという視点で、子どもたちや地域の実情に寄り添いながらご検討を進めていただければと思います。

人吉市立「中学校」の今後の方向性についての検討

1. 目指すべき適正規模の基準

・国が定める標準規模

１校あたり　９学級～１８学級（各学年３～６クラス）

2. 現状と課題

・生徒数の現状（R8.5.1 現在）

第一中学校 ３５９人 、第二中学校 ３６７人 、第三中学校 ２９人

・最優先課題

子ども達にとって最適な教育環境の整備と生徒数減少への対応

・課題の背景

→ 第三中学校は全学年１クラスの小規模校であり、集団活動や部活動の維持、多様な人間関係の構築が困難な状況。今後もこの傾向は続くことが見込まれる。

→ 第一中学校と第二中学校は適正規模を維持しているものの、現状維持のままでは将来、標準規模を下回ることも考えられるため、今後の少子化を見据えた対策を講じる必要がある。

（１）児童生徒数の推移

年度	児童数	生徒数	合計
40	5,660	3,351	9,011
50	3,978	2,115	6,093
60	3,878	1,935	5,813
元	3,424	1,808	5,232
10	2,646	1,568	4,214
20	2,117	1,127	3,244
25	1,802	984	2,786
26	1,794	958	2,752
27	1,763	937	2,700
28	1,743	900	2,643
29	1,762	868	2,630
30	1,714	865	2,579
1	1,719	820	2,539
2	1,633	845	2,478
3	1,580	843	2,423
4	1,557	851	2,408
5	1,527	836	2,363
6	1,473	808	2,281
7	1,414	810	2,224
・ ・			
14	938	600	1,538

（２）学級数の推移

年度	小学校	中学校	合計
60	113（ 2）	53（ 2）	166（ 4）
元	111（ 2）	51（ 2）	162（ 4）
10	101（ 5）	48（ 3）	149（ 8）
20	86（ 10）	39（ 5）	125（ 15）
25	84（ 16）	33（ 5）	117（ 21）
26	85（ 16）	33（ 5）	118（ 21）
27	82（ 17）	33（ 5）	115（ 22）
28	83（ 18）	33（ 6）	116（ 24）
29	80（ 18）	35（ 8）	115（ 26）
30	82（ 18）	35（ 8）	117（ 26）
1	83（ 21）	33（ 7）	116（ 28）
2	80（ 21）	33（ 7）	113（ 28）
3	82（ 22）	35（ 8）	117（ 30）
4	82（ 24）	35（ 9）	117（ 33）
5	81（ 23）	34（ 9）	115（ 32）
6	82（ 23）	33（ 8）	115（ 31）
7	81（ 24）	36（ 9）	117（ 33）
・ ・			
14	71	30	101

（ ）は特別支援学級の再掲

※↑ 特別支援学級数は同数として推計

入学予定児童生徒数

令和8年5月現在

学 校 名	R9年度入学 (R2.4.2~R3.4.1)		R10年度入学 (R3.4.2~R4.4.1)		R11年度入学 (R4.4.2~R5.4.1)		R12年度入学 (R5.4.2~R6.4.1)		R13年度入学 (R6.4.2~R7.4.1)		R14年度入学 (R7.4.2~R8.4.1)	
人吉東小学校	49	男 21 女 28	34	男 21 女 13	49	男 27 女 22	28	男 19 女 9	27	男 11 女 16	37	男 24 女 13
人吉西小学校	26	男 14 女 12	37	男 20 女 17	26	男 13 女 13	34	男 12 女 22	27	男 13 女 14	32	男 15 女 17
東間小学校	43	男 18 女 25	25	男 13 女 12	42	男 23 女 19	31	男 15 女 16	31	男 17 女 14	19	男 6 女 13
大畑小学校	5	男 2 女 3	6	男 4 女 2	3	男 0 女 3	5	男 3 女 2	2	男 2 女 0	2	男 2 女 0
西瀬小学校	27	男 13 女 14	17	男 9 女 8	20	男 14 女 6	17	男 9 女 8	19	男 8 女 11	16	男 10 女 6
中原小学校	42	男 23 女 19	33	男 18 女 15	35	男 23 女 12	29	男 16 女 13	34	男 17 女 17	29	男 14 女 15
合 計	192	男 91 女 101	152	男 85 女 67	175	男 100 女 75	144	男 74 女 70	140	男 68 女 72	135	男 71 女 64

第一中学校	128	112	123	109	105	83
第二中学校	111	115	115	107	97	83
第三中学校	11	8	12	6	4	6
合 計	250	235	250	222	206	172

各校児童生徒数(見込) ※最新のデータから

学 校 名	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
人吉東小学校	364	338	312	277	238	224
人吉西小学校	198	192	183	187	183	182
東間小学校	260	233	227	212	204	191
大畑小学校	41	39	30	29	27	23
西瀬小学校	153	139	132	125	118	116
中原小学校	261	253	235	211	205	202
合計	1,277	1,194	1,119	1,041	975	938

第一中学校	358	347	363	344	337	297
第二中学校	347	336	341	337	319	287
第三中学校	31	29	31	26	22	16
合計	736	712	735	707	678	600

【令和８年度現在：人吉市の学校規模の分類】　　※ 特別支援学級を除く

規　模	小学校	中学校	内容
過小規模校	1～5 学級	1～2 学級	・複式学級が存在する規模 ・クラス替えができない規模
小規模校	6学級	3学級	・クラス替えができない規模
	7～11 学級	4～5 学級	・一部の学年でクラス替えができる規模
		6～8 学級	・中学校全学年でクラス替えができ、同学年に複数教員を配置できる規模
適正規模校	12～18 学級 （各学年 2～3学級）	9～18 学級 （各学年 3～6学級）	・全学年でクラス替えが可能 ・同学年への複数の教員配置により、児童生徒への多様な指導や教員同士の相互伝達が可能 ・より多くの友人と学級間の交流を深めることで切磋琢磨する機会を増やし、人間関係や社会性を育むことが可能 ・中学校では部活動の選択の幅が広がる ・中学校では免許外指導の解消が可能 ・中学校では各教科で複数名の教員配置が可能
大規模校	19～30学級		・各学年の学級数がやや多く、教育課程の編成、実施に配慮を要する規模
過大規模校	31学級以上		・各学年の学級数が多く、教育課程の編成、実施に配慮を要する規模

大畑小

西瀬小、第三中

人吉西小(7)
東間小(10)
中原小(11)

人吉東小(13)
第一中(10)
第二中(10)

学校の適正規模・適正配置を検討する際、単に児童生徒数のみに着目するのではなく、児童生徒にとってよりよい教育環境の整備、安全・安心な学校生活への対応、教育の質の更なる充実を目指すことが重要であり、児童生徒が地域住民に見守られやすいことや、学校が地域のコミュニティの場であること、災害時の避難場所となることなどを考慮することも必要。

3．考えられる再編･統廃合のパターン

パターンＡ：【現状維持＋小規模校の活性化策】

現在の学校配置を維持したまま、単学級・小規模校のデメリットを補うための教育施策を導入する。３つの中学校を残したまま、教育工夫でカバーする方向性。

〇メリット(効果)

・住み慣れた地域での通学環境が維持され、通学負担が増えない。
・地域コミュニティの拠点としての学校が存続する。

〇デメリット(課題)

・人間関係が固定化し、中学３年間の集団生活における多様性が不足する。
・集団での教育活動やチームスポーツの不成立、部活動の選択肢減少、生徒数の根本的な減少を食い止めるという抜本的な問題は解決しない。
・自治体独自の特別な予算（遠隔授業システムの導入、他校との合同行事に伴う移動費など）が継続的に必要。

パターンＢ：【段階的統合･適正化】

小規模校である（今後も小規模の解消が見込めない）第三中学校を、第一中学校または第二中学校のいずれかに統合する方向性。

〇メリット(効果)

・第三中学校の生徒が、第一中学校または第二中学校の適正な集団規模の中で多様な人間関係や切磋琢磨できる環境を得られる。
・教職員の効率的な配置が可能になり、専門教科の指導体制が強化できる。

〇デメリット(課題)

・第三中学校生徒の通学距離・通学時間が延びる。
・スクールバスの導入や地域公共交通の見直しなど、新たな通学支援策が必要となる。
・第三中学校区の地域コミュニティ維持や学校跡地活用の検討が必要になる。
・第一中学校と第二中学校の生徒数減少対策は先送りとなる。

パターンＣ：【学校統合】

３つの中学校を１つに統合し、一定の生徒数を確保した新たな中学校を運営（既存校舎を活用）する方向性。

〇メリット(効果)

・クラス替えが可能になり、生徒達が多様な考え方に触れ、社会性を育む環境ができる。
・部活動の地域展開が充実することにより、生徒達が将来にわたり活動を継続して取組むことが出来る環境を整備し、単独チームでの大会出場や切磋琢磨が可能となる。
・各教科の専門教員がバランスよく配置され、授業の質が向上する。

〇デメリット(課題)

・一部の地域で通学距離が長くなり、スクールバスの導入や地域公共交通の見直しなど新たな通学支援が必要となる。
・閉校となる校区の地域コミュニティ維持や学校跡地活用の検討が必要となる。

パターンＤ：【全面再編･新設】

３つの中学校を対等統合し、最新設備を備えた１つの新設中学校を設置する方向性。

〇メリット(効果)

・地域全体で均等かつ持続可能な最先端の教育環境（ＩＣＴ機器・施設）を整備できる。
・適正規模校として維持することができ、学校行事が活性化する。
・部活動の地域展開が充実することにより、生徒達が将来にわたり活動を継続して取組むことが出来る環境を整備し、単独チームでの大会出場や切磋琢磨が可能となる。
・各教科の専門教員がバランスよく配置され、授業の質が向上する。

〇デメリット(課題)

・巨額の建設コストと、用地選定をめぐる地域間の調整に時間がかかる。
・３校すべての通学区域が再編されるため、影響を受ける保護者や生徒達が多い。
・閉校となる校区の地域コミュニティ維持や学校跡地活用の検討が必要。

【その他】今後のスケジュール等

●人吉市立学校のあり方検討委員会から市長へ答申（２月上旬）



●人吉市立学校のあり方検討委員会での議論や答申内容等を加味しながら、人吉市教育委員会としての基本方針を策定（２月中）



●「人吉市立学校のあり方検討委員会の答申」と「人吉市教育委員会の基本方針」を受けて、人吉市長が方向性を最終決定

（令和９年度以降）

新しい学校の場所、新築か大規模改修か、仮校舎、通学方法、校歌、校章、校則、統廃合後の利活用など詳細な部分については、市長の方向性を受けて人吉市議会承認後に動き出すことになります。

新規に準備委員会（仮称）を立ち上げて、各種部会を設置し、教育委員会以外の市役所関係部署とも緊密な連携を図りながら進めていくことになります。

＜メ　モ＞

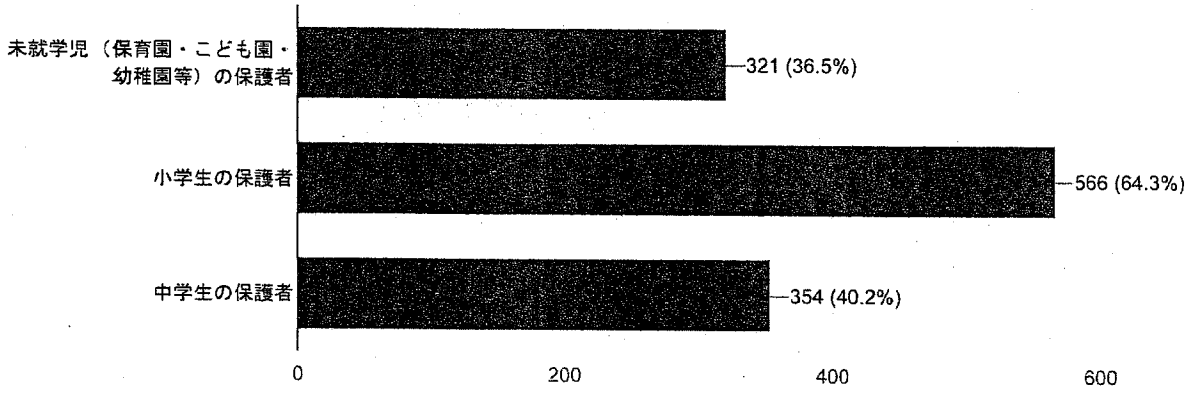
人吉市小中学校のあり方に関するアンケート 集計結果

アンケート実施概要　調査対象：人吉市内の未就学児・小学生・中学生の保護者
回答期間：2026年9月23日　有効回答数：880件（うち自由記述あり：239件）

集計結果

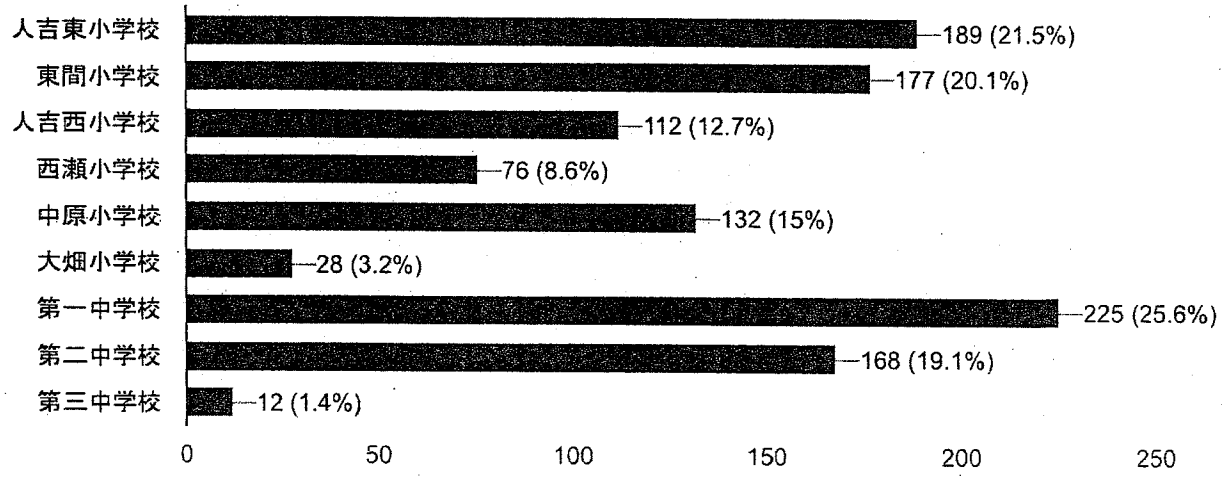
ご回答者様のご立場をお教えください。（複数回答可）

880 件の回答



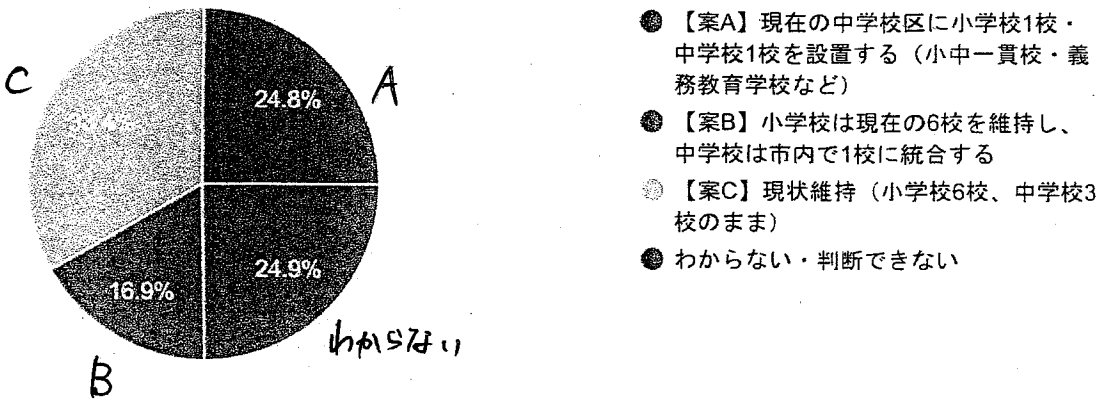
お子様が通われている（または通う予定の）学校をお選びください。（複数可）

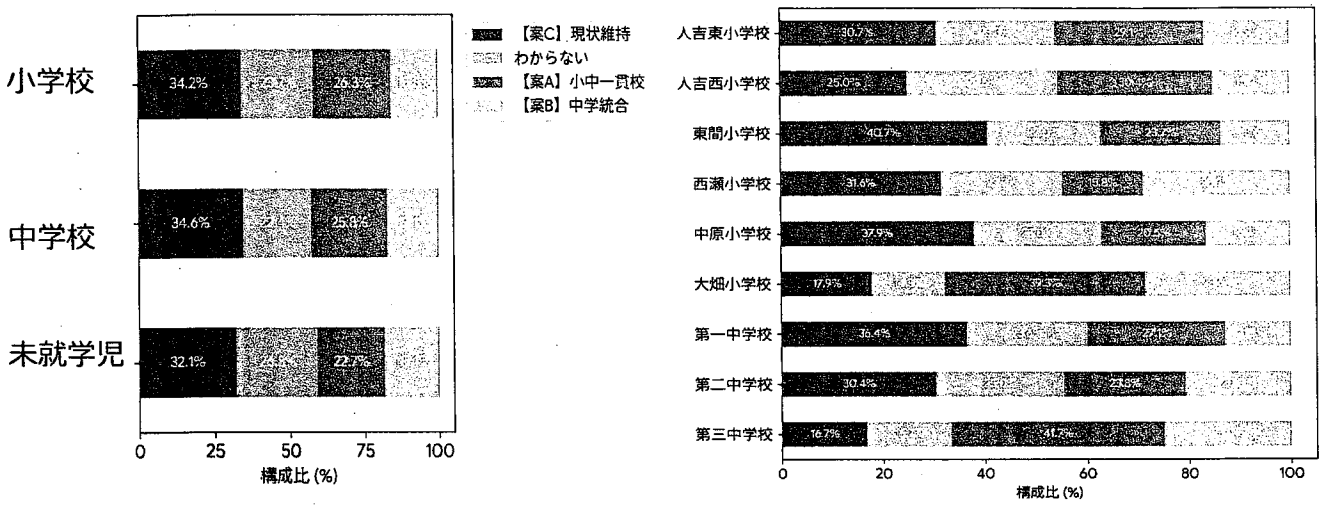
880 件の回答



今後の人吉市の小中学校の配置・再編について、あな...考えに最も近いものを1つお選びください。

880 件の回答





【問1の回答別】問3（今後の配置・再編）の回答割合

回答者様のご立場	【案C】現状維持	わからない判断	【案A】小中一貫校	【案B】中学統合
中学生の保護者 ($N=354$)	**34.2%** (121件)	**23.7%** (84件)	**26.3%** (93件)	**15.8%** (56件)
小学生の保護者 ($N=566$)	**34.6%** (196件)	**22.4%** (127件)	**25.8%** (146件)	**17.1%** (97件)
未就学児の保護者 ($N=321$)	**32.1%** (103件)	**26.8%** (86件)	**22.7%** (73件)	**18.4%** (59件)

傾向：○保護者の立場による大きな意見の偏りは見られず、いずれの立場でも **【案C】現状維持** が最も多く選ばれています（約32～35%）。
○**未就学児の保護者** は「わからない・判断できない」の割合（26.8%）が他の層よりやや高く、将来の通学環境に対する様子見の姿勢が伺えます

2. 【問2の回答別】問3（今後の配置・再編）の回答割合

問2：通学（通う予定の）学校名	【案C】現状維持	わからない・判断	【案A】小中一貫校	【案B】中学統合
人吉東小学校 ($N=172$)	**30.7%** (53件)	**23.3%** (40件)	**29.1%** (50件)	**16.9%** (29件)
人吉西小学校 ($N=112$)	**25.0%** (28件)	**29.5%** (33件)	**30.4%** (34件)	**15.2%** (17件)
東間小学校 ($N=177$)	**40.7%** (72件)	**22.0%** (39件)	**23.7%** (42件)	**13.6%** (24件)
西瀬小学校 ($N=38$)	**31.6%** (12件)	**23.7%** (9件)	**15.8%** (6件)	**28.9%** (11件)
中原小学校 ($N=132$)	**37.9%** (50件)	**25.0%** (33件)	**20.5%** (27件)	**16.7%** (22件)
大畑小学校 ($N=28$)	**17.9%** (5件)	**14.3%** (4件)	**39.3%** (11件)	**28.6%** (8件)
第一中学校 ($N=225$)	**36.4%** (82件)	**23.6%** (53件)	**27.1%** (61件)	**12.9%** (29件)
第二中学校 ($N=168$)	**30.4%** (51件)	**25.0%** (42件)	**23.8%** (40件)	**20.8%** (35件)
第三中学校 ($N=12$)	**16.7%** (2件)	**16.7%** (2件)	**41.7%** (5件)	**25.0%** (3件)

傾向　**小規模校区（大畑・三中）：再編賛成（案A＋案B）が約67～68%**に達し、**【案A】小中一貫校** への支持率（約39～42%）が非常に高くなっています。児童生徒数の減少に伴う人間関係の固定化や集団教育の維持に対する高い課題感が反映されています。
大規模・中心部校区（東間・中原・一中）：**【案C】現状維持** の割合が **36%～41%** と比較的高く、現在の校区環境の維持を望む声が強くなっています。
西瀬校区：**【案B】小学校維持・中学校統合**（28.9%）の割合が他校区と比べて高いのが特徴です。

1. 全体傾向と主要のテーマ

自由記述の記入状況：239件（28.3%）が回答。
再編を望む層（案A: 37.7%、案B: 35.2%）ほど高い記入率となりました。

関心の高いテーマ

- **教員負担・部活動・一貫教育**（42.7%）：教員不足の解消や、部活動の単独チーム維持への期待。
- **通学アクセス・送迎負担**（27.6%）：遠距離通学の危険性や保護者の送迎・スクールバスへの関心。
- **集団規模・切磋琢磨**（27.6%）：少人数の安心感 vs 多人数による刺激・社会性。
- **地域社会・防災拠点**（18.0%）：学校消滅による地域の過疎化や避難所機能への懸念。

2. 再編案別の分析と保護者の声（◆原文抜粋）

【案A】小中一貫校・義務教育学校（77件）

教育資源の集約による質的向上と、中1ギャップ解消・部活動維持を期待

分析：施設や予算、教員を1つに集約することで、質の高い環境整備や教員の多忙化解消を望む声が多数。スクールバス等の安全確保を前提条件として挙げる意見が目立ちます。

ヽ「子どもの数が減り、学校施設が老朽化している現状においては、学校数を減らす以外の選択肢はないと思う。施設数を減らすことで、１校当たりの予算を増やすことができる。教員不足解消にもつながると思う。」
◆「部活の選択肢が減り、学年によっては１校だけではチームが組めない状況になっているので、早めに中学校は１校とするべきだと思います。」
◆「登下校に関してはスクールバス利用をお願いしたい。」

【案B】小学校維持・中学校1校統合（51件）

発達段階に応じた区分（低学年は手厚く近接、中学期は刺激・社会性）

分析：小学校時期は安心感や送迎負担軽減のため近隣校を維持し、行動範囲の広がる中学校から1校に集約して人間関係の固定化を防ぐという考え方です。

◆「小学校は地域に近い現在の学校を維持し、中学校は1校に統合する案がよいと思います。小学校と中学校を分けることで、中学進学時に新しい仲間と出会い、人間関係を広げたり、さまざまな人と関わる中で成長できると思うからです。」
◆「小学生の通学手段が徒歩のため距離があると親の送迎負担がある。中学生になると体力的にもあるので自転車通学が可能になると思う。」
◆「あまり1カ所へ集中すると、クラス自体が大人数なった時に、先生がクラス全員様子を見れるのか対応できるのか心配。」

【案C】現状維持（70件）

通学の安全確保、地域の衰退阻止、大規模化による課題（不登校・目が行き届かない）の回避

分析：遠距離通学に伴う事故リスクや送迎負担、地域の過疎化に対する危機感が強い動機です。大集団化によるいじめや不登校の未然防止を求める声も含まれます。

◆「小中学校を統廃合することで通学路の登校距離が長くなり、交通面や防犯面での安全性において、保護者が不安を抱えることになります。」
◆「学校がなくなったらその地域は人が寄りつかなくなります。親は子供の送迎が今まで以上に必要になったり職場に無理言って都合つけないといけない時など出てくるでしょう。」
◆「人数が増えると一人一人に目が行き届かない。支援級であるため、合併統合し巨大化する事で支援が手薄または質が低下しないか不安がある。」

【わからない・判断できない】（41件）

少人数・多人数双方のデメリットへの葛藤と、具体的な方針の未提示

分析：「少人数の安心感」と「大人数の刺激」の狭間で決めかねている層や、設置場所スクールバス等の具体案が見えないため判断を保留している層です。

- ◆「自宅から安全に徒歩通学できる範囲と考えると現在のままであってほしい。しかし今後、極小規模校になったり複式学級が増えるのであれば再編もやむを得ないのかとも考える。」
- ◆「一貫になる利点や不都合な点がはっきりと周知されていないまま判断はできない。統合した際にスクールバスはあるのかなど、具体策が分からないため判断できなかった。」

3. 今後の合意形成に向けた要点

通学・送迎手段の具体化：スクールバス運行や部活動後の下校対策を早期に提示すること。

大規模化時のサポート体制：集約時の加配教員配置や不登校・特別支援へのフォロー体制を明示すること。

地域の存続ビジョン：校舎跡地の活用法や、地域の防災・拠点を残す方針を示すこと。

すべての原文データはＱＲコードより確認できます。

人吉市小中学校のあり方に関するアンケート 自由記述全文ＵＲＬ
https://drive.google.com/file/d/1RydQaf5wmE1yH_nnPs7PBdAFPdV4L9ea/view?usp=sharing

アンケート全文

集計結果まとめ資料はＱＲコードより確認できます。

人吉市小中学校のあり方に関するアンケート 集計結果ＵＲＬ
https://drive.google.com/file/d/1bsVytfZw82-LArjyw3DDPc7OTW2jsAzy/view?usp=sharing

集計まとめ

★今後の人吉市立中学校の生徒数見込み（小学校入学予定者数からの推計）

（単位：人）

学校名	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度
第一中学校	358	347	363	344	337	297	284	232	242	209	208	173
第二中学校	347	336	341	337	319	287	286	270	263	248	241	237
第三中学校	31	29	31	26	22	16	18	18	14	14	10	9
合　計	736	712	735	707	678	600	588	520	519	471	459	419

